

～自動車の安全・安心を守るスペシャリスト～

今こそ！ 自動車整備士

※自動車に電子機器（外部診断器）を接続して自動車整備をしている様子。

自動車整備士は国家資格です。

自動車の整備は、自動車を安全かつ快適に使用するために必要不可欠です。この重要な仕事を行うエンジニアが取得する国家資格として自動車整備士があります。

自動車整備士は、**自動車の構造や整備に関する知識や技能を持っていることを国が認めた国家資格**であり、今後、自動車に関する職業に就いていく上で大いに役立ちます。

自動車の安全・安心を守ることで社会に大きな貢献をしています。

人や貨物の移動など、毎日の生活に自動車は欠かせません。このため、もし、走っている自動車が頻繁に故障すると、私たちの日々の生活に大変な支障が生じます。さらに、走行中の故障は、事故や環境汚染につながり、また、故障車が道路を塞いで渋滞を引き起こしたりするなど、社会が受ける影響はとても大きなものとなります。

自動車の安全・環境性能を維持し、故障を未然に防ぐためには、法令や自動車メーカーによって定められた一定期間ごとの点検や部品交換等の整備を適切に行う必要があります。

自動車整備士は、この整備の仕事の専門家です。**故障を未然に防いだり、適切に修理して自動車を良い状態に維持することにより、安全・安心を守り、社会に大きな貢献**をしています。

高度な技術力を習得し、発揮するプロフェッショナルです。

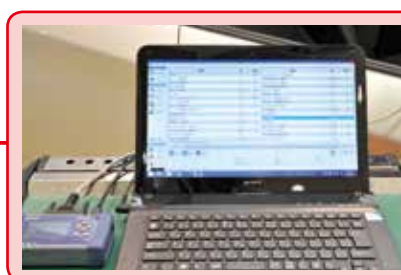
ハイブリッド自動車、電気自動車、水素を燃料とする燃料電池自動車等の次世代自動車の登場や、衝突被害軽減ブレーキ等の先進安全装置の普及など、高度な技術が急速な勢いで自動車に使用されています。これらの次世代自動車の整備を行うためには、自動車の最新技術を理解し、適切な自動車整備を行うための技術を身に付け、その成果を発揮することが必要です。

自動車整備士は、次世代自動車の整備に必要な**高度な技術力を習得し、ユーザーのために発揮する自動車整備のプロフェッショナル**です。

自動車整備士の仕事

近年の自動車は『環境保全の性能の向上』『安全性の向上』などのために多くの電子制御システムが使用され、構造や機能が高度で複雑なものとなっています。

このため、自動車の整備においては、電子機器である外部診断器（※スキャンツール）を活用したり、インターネットを活用した情報提供ネットワークなどから整備情報を閲覧、収集するなど、IT化が進んでいます。



スキャンツール

※スキャンツールは、その機能を格納したパソコンや専用の機器を自動車に接続し、自動車に搭載されたコンピューターから故障情報の読み取りなどを行うことができる。

今、街を走っている自動車は、スマートフォンやタブレット等と同様に、私たちの身近な存在であり、社会にとってなくてはならないものです。そんな自動車が、突然故障したりしないように、また正常に動ける状態を維持するためには、法律で定められている定期点検などを行い、必要に応じてエンジンオイルや部品の交換などの整備を行わなければなりません。



自動車整備の現場である整備工場は、自動車の状態を電子機器（外部診断器）で診断するなど高度化が進み、先進機器の導入や効率的な配置などにより先進的な整備環境へと変化しています。



自動車の新技術

安全

車線維持支援



被害軽減ブレーキ



周辺視界情報提供

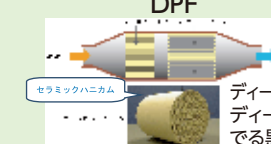


高度運転支援技術 → 自動運転



環境

ハイブリッド自動車(HV)DPF



電気自動車(EV)



ディーゼルパティキュレートフィルター
ディーゼルエンジンから
出る黒鉛を取り除く装置

クリーンディーゼル



ディーゼルエンジンの
排ガスを無害化する

燃料電池自動車(FCV)



自動車整備士資格

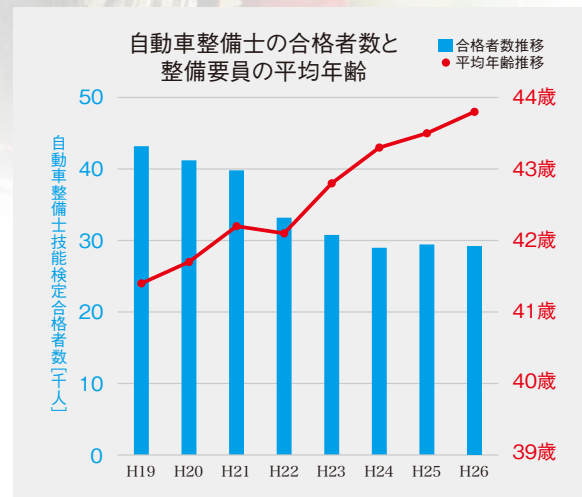
自動車整備士の現状

自動車の整備に関する国家資格として自動車整備士がありますが、近年、自動車整備士の資格を取得する若者が減少しています。また、それに合わせて整備事業への従事者の平均年齢が上がってきております。

このため、多くの整備工場やディーラーでは、自動車整備士資格の取得者や取得を目指すエンジニアを求めています。

また、自動車には時代の流れとともに、新しい技術が次々と開発、搭載されています。特に、自動車に乗車する人や歩行者などの安全を確保する技術、燃費の向上や排気ガスをクリーンにする環境性能を高める技術が新たに多く開発され、実用化されています。現在も、水素等の新しい燃料を使った自動車や、自動運転の技術など、様々な先進技術の研究、開発が積極的に進められています。

自動車整備士の仕事は、これら**新しい技術の自動車に対応できる専門的な知識と高い技能が求められる仕事**となっています。



自動車整備士の種類

自動車整備士になるためには、一定の実務の経験後や自動車整備士の養成施設等の修了後に、国が行う自動車整備士技能検定の学科試験及び実技試験に合格する必要があります。なお、登録試験機関による登録試験の合格、自動車整備士の養成施設の修了等により、試験の一部又は全部が免除されます。

また、**自動車の分解整備を行う認証整備工場や指定整備工場（民間車検場）**には、**自動車整備士の有資格者が必要**です。

三級自動車整備士 特殊整備士

三級自動車整備士は、**各装置の基本的な整備ができる知識と技能を持っています。**
特殊整備士は、**車体、電気装置、タイヤの各分野において、専門的な知識と技能を持っています。**

二級自動車整備士

自動車の一般的な整備ができる知識と技能を持っています。

自動車検査員、整備主任者を
目指す場合は必要

一級自動車整備士

自動車の全般かつ高度な整備ができる知識と技能はもちろん、環境保全、安全管理等の知識や、他の整備士等に指導を行う能力も持っています。

自動車整備士の最高位

登録試験に関するホームページ【(一社)日本自動車整備振興会連合会】 <http://www.jaspa.or.jp/>

登録試験の申請方法、その他登録試験に関して、ご不明な点がございましたら一般社団法人日本自動車整備振興会連合会又は最寄りの各都道府県自動車整備振興会にお問い合わせください。



先輩からの一言



北海道 Kさん 女性

お客様から「ありがとう」、「また来たいよ!」、「頑張ってるね!」と声を掛けていただくと、とてもうれしいです。「力仕事」にハンデは感じますが、それ以外では、特に「女性だから不利!」だと感じたことはありません。女性整備士は同性に対する接客については、女性の気持ちの方が分かるところが有利だと思えます。

今後の目標としては、取得できる資格は全てチャレンジし、整備のプロを目指します。また、女性らしさを全面に出し、きめ細かいサービスを心掛けます。



北海道 Kさん 男性

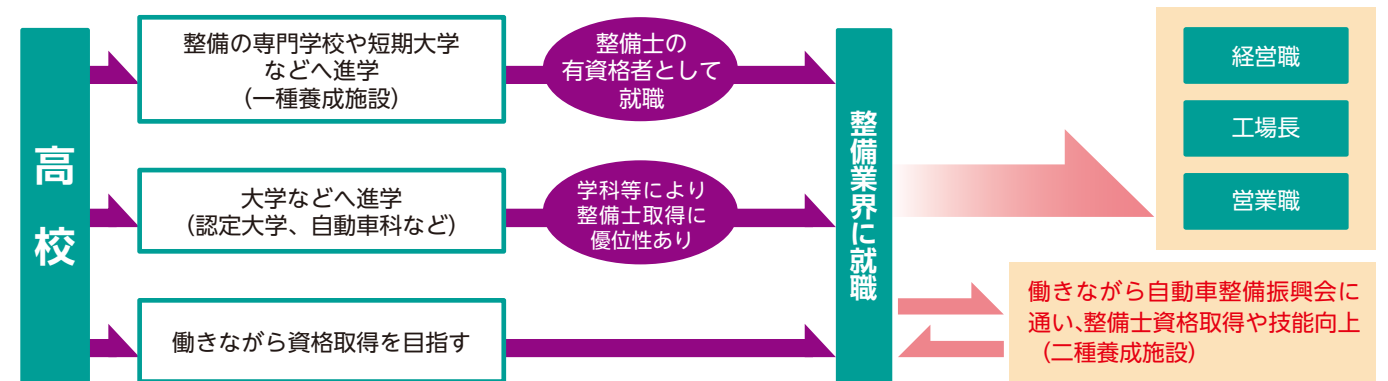
エンジンのオーバーホール等、できなかった整備ができるようになったときにやりがいを感じます。また、原因を探索してトラブルを直したとき、お客様に感謝されお礼を言われたときは整備士になってよかったと思える瞬間です。

先輩の女性整備士（現工場長）と一緒に仕事をしたとき、こんなことまで出来るものかと思う位すごくて、正直びっくりし、その後もいろいろなことを教わり、性別は関係ないと思いました。

整備士は楽ではないけれど絶対やりがいのある仕事だと思います。

自動車整備士を目指すには？

自動車整備士の資格を習得するには、専門学校や短期大学、大学等で自動車整備の知識と技術を習得する方法と、整備工場に就労後、働きながら勉強して資格を取得する方法の二通りがあります。



また、近年、自動車整備士が活躍される場が広がっています。自動車整備士として働いている方で、技術のスペシャリストを目指すだけでなく、自動車販売などの関連分野においても、会社経営に携わるような重要なポジションに就く方も増えています。このように最近、自動車整備士が、習得した技術を様々な職種で存分に発揮して活躍されています。

自動車整備士についてのホームページ【国土交通省】 http://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk9_000011.html

自動車整備士養成施設の一覧は、上記ホームページ内の「自動車整備士養成施設」に掲載されています。
養成施設の情報は、一種養成施設は個々の学校等に、二種養成施設はお近くの自動車整備振興会にお問い合わせください。
このパンフレットは、国土交通省のホームページに掲載しています。



整備士を養成する専門学校や短期大学などの授業風景



国土交通大臣杯の授与式

平成28年4月26日に自動車整備の技術と知識を競う第20回全日本自動車整備技能競技大会の優勝者に、石井大臣から国土交通大臣杯が授与されました。
石井大臣より、優勝者に対し、「自動車整備は、安全・安心な車社会の大本であり、それを支えるのが、自動車整備士の皆様。これからも全国の自動車整備士の模範として卓越した知識と技能を広めつつ、一層活躍いただくことを期待する」とのお言葉がございました。



石井大臣、宮内政務官と
第20回大会優勝の福岡県チーム



和歌山県 Mさん 女性

車は大切な家族や友人を乗せる機会が多いので、安心して乗って頂くために、車検などの受付の時は、車の状態をしっかりと見極めて、自分なりに適正な整備を考えて、引き渡しの時に「ありがとう、また来るわ」など感謝の言葉をもらってうれしくやりがいを感じます。

女性整備士は、細かく繊細な作業は、手先が器用な女性が多いので向いていると思います。

今の若い人は車を移動手段としか思っていないか、車に興味を持っている人が少なく、安全に車に乗る楽しみを伝えることができ、お客様から感謝の気持ちを頂けるのが整備士だと思います。



福島県 Yさん 男性

整備士になって良かったことは、やはりお客様に「感謝」をしていただけたということです。オイル交換でご来店されたお客様に対して、空気圧を調整したり、ウォッシュ液を足したり、窓ガラスを拭いたりして、プラスαの整備を行ったとき、お客様に「ありがとう」と言われることが多く、本当に整備士になって良かったと思います。

整備という仕事は難しい部分も、面白い部分も沢山あり、本当にやりがいを感じられる職業だと思います。車が好きな人も、そうでない人も整備士を目指すなら、まずは、しっかり勉強し、試験に備えてください。会社に入り、仕事が始まったら次から次に目標が見つかり、充実した社会人生活が出来ると思います。